ニュースがわかる、福音が見える

クリスチャン新聞

THE CHRISTIAN

2022. 11/6

■編集部【e-mail】cs-edit@w pm.or.jp【tel】03-5341-6957
■購読課【e-mail】cs-read@wlpm.or.jp【tel】03-5623-7925【fax】03-5623-7926
発行・いのちのことば社 ©クリスチャン新聞 〒164-0001 東京都中野区中野2-1-5
2022年11月6日発行（毎週日曜日発行） 通巻第2642号（1960年12月10日第3種郵便物認可）
1部235円（税込）

ここに注目！ 購読はこちら▶

無牧教会の牧師招聘 最終的に教会が主体的に判断……4,5
「ニーバーの祈り」紹介神学者大木氏逝去……3
世界を変える神の祝福 JCMゴスペル……2
「小さくされた人は主」JOCS畑野氏講演……6
「仕事か、信仰か」こえて「仕事と信仰」に……7

「信仰か、仕事か？」から、「信仰と仕事」へ

仕事は良いものと認め前向きに

Light Project 信仰と仕事セミナー

「LIGHTプロジェクト 信仰と仕事ミニストリー」（ディレクター・サックス知子）の「信仰と仕事セミナー」が9月10日、オンラインで開催された。テーマは「『信仰か、仕事か』から『信仰と仕事』へ」。当日は「LIGHTプロジェクトの「信仰と仕事コース」を受講した2人のスピーカーの話を聞くと共に、参加者同士でディスカッションした。

◇ ◆ ◇

最初のスピーカーは鈴木頼子さん（キリスト信徒の集会ベタニヤホーム教会員）。鈴木さんは、ベビー服や子どものパジャマのデザイナーで、現在は沖縄のバイブルカレッジで学生生活を送る。「仕事を通して神様を証しするのにふさわしい生き方をしたいというのがモチベーションで、職場の人と深く関わりたいと願っていた」と鈴木さん。だが、「仕事自体で福音を現すという考えでなく仕事を使って、といった機会として捉えていた」と話す。「仕事は好きだったが、仕事に価値があるのかなと思った。信仰と仕事が統合できていなかったと思う」

そんな中、コースを受講。(1)キリスト教世界観を教えてもらった、(2)宿題やディスカッションを通して自分の偶像に気づかされた、と言う。「神様が創造されたのはすべて良いものと認めることで、仕事を福音により贖われたものとして取り戻せた。すべてに罪の影響が出ているとの業界が本来の役割からずれてしまっているのであって、証券会社の仕事自体は悪と捉える必要はなかった」

小西湧さん

鈴木頼子さん

その上で、今働いているヘルスケア業界を捉え直してみたと認めることで、困難が生じた時、必要以上に原因を見つけ出そうとすることから助けてくれた。すべてのことを贖う力がある福音は、どんな状況でもイエス様を迎え入れ、希望を与えるものとなった」

「今の学生としての時間も、神様が与えてくださった仕事として受け取っている」と語った。

2人目は小西湧さん（クロスロード・インターナショナル教会教会員）。社会人9年目で、証券会社に勤めていたがそこを辞め、現在はヘルスケア業界の会社で働く。転職を機にコースを受講。「信仰と仕事のつながりが整理され、仕事に対してより前向きに取り組めるようになった」と言う。「前職は利益至上主義的なところがあった。仕事自体が世俗的で、堕落したものという感覚を持っていた。だが、「上から目線でなく、寄り添い、聞くことを心掛けている」、「上司にどう福音を伝えればいいか祈りながら接している」、「神様に心を向ける」、「神様と近い関係で仕事をすることで、業務がうまくいったりするケースがある」などの声が聞かれた。【中田 朗】

語る。「不安を抱えている人に寄り添って癒やしを与えるこの業界は、病を癒やされたイエス様の姿と重なる部分がある。一方、一人ひとりに寄り添うことよりも、利益優先、効率重視という課題もある」

今、会社内での人間関係を見直し、また仕事を通じてストレスを感じている人に寄り添い、サポートすることを心掛けているという。「まだまだスタートラインに立ったばかり。神様が私に仕事を通じて与えられている役割について考えさせられた。仕事を通じて神様に仕えていけるよう祈りつつ歩みたい」と結んだ。

小西さんの話の後、「仕事においてあなたが心掛けていることは？」をテーマにディスカッション。参加者からは、